

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071101234		
法人名	医療法人 恵光会		
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原		
所在地	福岡市南区柏原1丁目2-46 (電話) 092-565-2457		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 15 日	評価結果確定日	令和 4 年 10 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設への坂を上がり、門を入ると玄関先には、四季折々の花が咲いています。今年は1階の名前の由来の「またたび」や琵琶が実を付けず不作で残念でした。入居者様と「顔なじみ」「声なじみ」の関係をつくり、笑顔で居心地良く過ごして頂いています。コロナ渦で御家族様の行事参加が出来ない為、行事の様子を写真に撮り、手紙と一緒に送付しコミュニケーションを心がけています。今年は面会が出来ないにも関わらず、御家族様の方よりお菓子や果物などの差し入れを頂き、日頃からのコミュニケーションの大切さを感じました。寿退社、部署異動もあり、新入職員も施設から働きながら初任者研修や実践者研修を取得した職員もあり、スキルアップ出来る環境であります。また、母体の原病院と医療連携が整っている為、御家族様から安心の声を頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人が24時間対応可能な病院であり、医療との連携が優れている。3名の看護師が介護現場に入り、介護と医療との連携が図られており、看取りの体制も整っている。職員の資質も高く、施設長、係長を中心にチームワークがとれている。食と健康をテーマに、美味しい食事を利用者に提供するため、職員は試行錯誤しながら研鑽を重ねている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念 「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられる事を支援します。」を掲げている。	地域密着型の視点を有する事業所理念があり、朝礼時に復唱している。また、フロアミーティングにおいて、施設長を中心に理念について職員と共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成30年まで選挙時に希望があれば同行していたが、以降なし。イベントにも同行していたが、コロナの為、現在なし。	自治会に加入している。コロナ禍のため、イベントへの参加や開催は自粛している。近所からの花の差し入れが度々行われる等、隣近所との付き合いを大切に、可能な限り交流するよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議や家族会では、テーマを決めて勉強会を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、行事報告等をしている。いきいきセンターの方に参加して頂き、意見を聞いている。また、地域の方と意見交換をしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されている。コロナ禍のため、電話での話し合いがなされている。会議の構成員は、町内会役員、民生児童委員を始め、地域住民の参加が多く、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状を送り、来所が出来ない時は、議事録を送るなどをしている。	日頃から行政へ運営に対する報告や相談等を電話で行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名身体拘束を行っていたが、退居により現在は身体拘束は該当者なし。	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、付き添いを行っている。研修計画に沿って、職員は研修に参加し、伝達研修が行われている。テキストやパンフレット、研修記録、報告書が整備されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、報告勉強会をしている。令和4年度（9月権利擁護外部研修）参加。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には支援できるようにしている。外部、内部の研修会を通して、情報の活用をしている。現在1名、成年後見制度を利用している。	権利擁護に関する制度等の説明については、主として家族会を通じて行われている。年1回、一部の職員が外部研修へ参加し、伝達研修がなされている。テキストやパンフレット、研修記録、報告書が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明、同意を頂いている。変更時も説明、同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に常に尋ねている。また、声のポストを設置している。ケアプランについても御家族、御本人へ意見を求めている。	利用者や家族が運営推進会議に参加し、意見を述べる機会がある。週1回、お菓子等を買いにスーパーに行きたい等、できる限り意見を聴くように心がけている。意見箱を設置したり、家族等に第三者相談窓口を説明する等、外部へ意見を表せる機会を設け、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内研修会やフロアミーティングを行い、職員の意見を聞いている。また、業務改善等についても意見を聞き、反映する努力をしている。	フロアミーティング等において出された職員の気づきやアイデアを、必要に応じて運営に取り入れている。年3回、職員の自己評価及び個人面談を行い、職員が意見を言いやすいよう工夫している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年3回実施し、確認している。常に声掛けをして相談にのっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人全体で募集、採用しているが、年齢や性別等の条件はない。利用者との関わりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務の中で活かせるようにしている。再雇用もやっている。	幅広い年代の職員が働いており、定年はあるが希望に応じて再雇用されている。本人の希望や適性によって配置する等、安心して働ける職場環境づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	南区内、校区内で開催される人権研修会に出席し、職員へ報告会を行い、共有している。	様々な分野の人権に関する研修を一部職員が受講し、伝達研修を行っている。テキストやパンフレット等が整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の外部研修の希望があれば、参加・報告し、職員間で反映共有している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週末に系列施設と情報交換会を行っている。法人の介護系勉強会に参加しているが、コロナの為、開催できていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会し、初期アセスメントを作成するにあたり、御本人、御家族の希望を元に支援している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、御本人、御家族の希望を聞き、関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族、各担当者話し合い、連携を取り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第2の家族のように方言等を使い、コミュニケーションを図り、関係を築いている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の来所時、その都度状況説明し、対応に困った時などは、昔の話を聞き、介護に反映している。イベントは、現在、コロナのため参加不可の為、イベント時の写真を撮り、ご家族へ送付している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣のアパートの方等は、フェンス越しに野菜作りについてお話をしたり、幼馴染が近くにおられる時などは、電話でのやり取りを支援している。	職員は利用者の馴染みの人や場所、生活歴について、利用者や家族から聞き取り、把握している。知人の事業所を訪問したり、お墓参りや年忌法要に参加する等、利用者がこれまでの関係を継続できるよう働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでテレビを観たりカラオケ等で交流している。入居者様同士、声をかけたり、お世話をしようとする。ホールの席も配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時は、職員でお参りに行っている。その後も御家族の方と繋がりがあがる。また、一周忌にはお花を贈っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン変更時は、御本人、御家族の希望を聞き取り、意向把握に努めている。	職員は家族等から思いや意向を聞き取り、職員間で情報共有している。また、利用者の行動や表情、目の動き等から気持ちを汲み取る等、希望や意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に聞き取りをしている。アセスメント、モニタリングで確認、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で現状を確認し、ミーティングで把握し共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、問題が発生した場合は、ケアカンファレンスを行っている。	本人や家族、管理者、担当スタッフ、医師の気づきや意見を反映しながら、利用者本位の介護計画を作成している。6ヶ月に1回、利用者の状況に応じて、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテがあり、介護時の問題点や日々の状況を記録し、ケアカンファレンスで情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入居様が入院された場合等、御家族の方と相談し、対応している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和4年7月から訪問理美容を再開している。今はやれていないが、ボランティアによるどんたく隊の来所を予定している。関連施設との合同秋祭りも再開をしたいと考えている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の介助や（皮膚科、歯科）訪問診療（往診）を受けている。	入居時に、診療体制や医療設備、法人母体病院について説明し、希望する医療機関による受診を支援している。家族と受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。受診には事業所スタッフが付き添うが、家族の希望や医師の指示等、必要に応じて家族も同行している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護師がおり、状態に変化があれば相談、必要に応じて受診している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医担当部署の看護師やメディカルソーシャルワーカーと情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作り、必要に応じて、御本人家族に説明し、御家族と同意書を交わしている。ホームの看取り介護に関して職員も周知しており、ホーム全体で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明文化している。重度化した際の対応について、契約時や家族会において説明している。利用者の状況変化に応じて、その都度、利用者・家族等の意向を確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のホーム内研修会で事故発生時はヒヤリハットを報告・検討し、職員全員で共有し、実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練及び消防訓練を行い、地域推進委員会で非常時に備えて協力を依頼している。最終避難場所を唱和している。	火災・風水害・地震等の災害の種類に応じてマニュアルを整備し、避難訓練に取り組んでいる。非常用食品を入れた箱に消費期限を明記し、必要に応じて入れ替えている。各居室入口には、身体状況を示す印を貼り出し、避難時に外部からの応援者がスムーズに対応できるよう配慮している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に、その人らしくと掲げ、人格を尊重した態度で接するように心掛け、介助中のプライバシーを守っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底している。また、外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関して話さないこと等を徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の希望や思いを聞き取り、自己決定していただいている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も体調やペースに合わせて無理強いせず、食事や睡眠時間を考慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好きな洋服を着ていただいている。起床時に整容していただいているが、介助が必要な方にはホットタオル等を使用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように、好みを把握している為、出来た料理をお見せし、荒刻み、ミキサーにかけたり、あんをトロミにしたり、そのまま提供したり工夫している。	食事は3食とも各ユニットで調理している。利用者と職員は、一緒に食事の準備や片づけを行っている。フロア内には調理の音や匂いが行き渡り、配膳しながら一人ひとりに献立を説明する等、食事が楽しみになるよう支援する。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートを作成し、食事量や水分量を記入し、嚥下状態が困難な方はミキサー食・トロミ食にて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食時に口腔ケアを行い観察している。必要に応じてマウスウォッシュを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の排泄パターンを把握し、個々に合うケアを行っている。	職員は利用者の排泄サインによってトイレ誘導を行っている。サインの把握が不十分な利用者については、排泄間隔を見計らってトイレ誘導をしている。おむつやパットを使用する際は、時間帯等に応じて、利用者一人ひとりについて常に見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、ドクターの指示で下剤を調整している。野菜を多く取り入れたメニューを考慮したり、乳製品・オリゴ糖・アマニ油を提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望に応じて対応している。週2回入浴している。	一番風呂や仕舞い湯等、利用者の意向に添って浴室に案内している。入浴日は決まっているが、希望に応じて対応している。入浴を無理強いすることなく、その人に合わせて支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を確認し、夜勤者が申し送りをしている。昼夜逆転の方もおられ、睡眠導入剤を処方される事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書にて把握している。与薬時はダブルチェックにて内服するまで確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に御家族より情報を聞き取り、ケアに生かしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の帰りに昔住んでいた近くを通るなど、ドライブを行っている。買い物をしたい希望があれば、コンビニエンスストアへ出掛けている。	コロナ禍のため、外食やドライブ等に行っていないが、事業所周辺を散歩したり、玄関脇のウッドデッキでお茶会等を行っている。また、週に1～2回、近くのコンビニやスーパーに歩いて買い物に行き、帰りは事業所の車の迎いで帰ったりしている。受診の帰りに自宅付近等を通る等、工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際、預り金の財布を渡して支払いができない場合は支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、かかってきた場合は取り次いでいる。節目節目で御家族の方からの荷物や手紙の受け取りの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾っている。毎月壁飾りを入居者様と一緒に作成している。	建物内はバリアフリーで、手すりが建物内の壁に沿って設けられているため、利用者は手すりを伝って建物内を移動することができる。窓は二重窓で温度管理に役立っている。食堂のテーブルは、利用者が使いやすいよう、利用者の状況によってその都度配置換えがなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに入居者様同士が語らえる場所（座席）の配慮をしている。希望時は自室で過ごしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具やソファ、写真、飾り物等を持って来ていただいている。御本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	居室には、利用者の馴染みの物や家族写真、家具等が持ち込まれており、利用者の個性が感じられる。ベッドは利用者の動線や身体状況に合わせて位置や向きが工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、また、廊下やトイレに手すりを設置。個々の残存機能を生かした支援をしている。トイレや洗面所が分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念 「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられる事を支援します。」 を掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成30年まで選挙時に希望があれば同行していたが、以降なし。 イベントにも同行していたが、コロナの為、現在なし。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議や家族会では、テーマを決めて勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、行事報告等をしている。いきいきセンターの方に参加して頂き意見を聞いている。また地域の方と意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の案内状を送り、来所が出来ない時は、議事録を送るなどをしている。 (今回、地域推進会議は5月7月開催)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名身体拘束を行っていたが、退居により現在は身体拘束は該当者なし。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し報告勉強会をしている。 令和4年度（9月権利擁護外部研修）参加。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には支援できるようにしている。外部、内部の研修会を通して情報の活用をしている。 現在1名成年後見制度を利用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明、同意を頂いている。 変更時も説明、同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に常に尋ねている。また、声のポストを設置している。 ケアプランに関しても御家族、御本人へ意見を求めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内研修会やフロアミーティングを行い職員の意見を聞いている。 また、業務改善等についても意見を聞き、反映する努力をしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年3回実施し確認している。常に声掛けをして相談にのっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人全体で募集、採用しているが、年齢や性別等の条件はない。採用は利用者の関わりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務の中で活かせるようにしている。再雇用も行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	南区内、校区内で開催される人権研修会に出席し、職員へ報告会を行い共有している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の外部研修の希望があれば参加報告し職員に反映共有している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週末に系列施設と情報交換会を行っている。法人の介護系勉強会に参加しているがコロナの為、開催できていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会し、初期アセスメントを作成するにあたり、御本人、御家族の希望を元に支援している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、御本人、御家族の希望を聞き、関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族、各担当者話し合い連携を取り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第2の家族のように方言等を使いコミュニケーションを図り関係を築いている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の来所時、その都度状況説明し、対応に困った時などは昔の話を聞き介護に反映している。イベントは現在コロナのため参加不可の為、イベント時の写真を撮りご家族へ送付している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣のアパートの方等は、フェンス越しに野菜作りについて、お話をしたり、幼馴染が近くにおられる時などは電話でのやり取りを支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでテレビを視たりカラオケ等で交流している。入居者様同士、声をかけたり、お世話をしようとする。ホールの席も配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時は、職員でお参りに行っている。その後も御家族の方と繋がりがあがる。また一周忌にはお花を贈っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン変更時は御本人、御家族の希望を聞き取りし意向把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に聞き取りをしている。アセスメント、モニタリングで確認、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で現状を確認しミーティングで把握し共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、問題が発生した場合は、ケアカンファレンスを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテがあり介護時の問題点や日々の状況を記録し、ケアカンファレンスで情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入居者が入院された場合等、御家族の方と相談し、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和4年7月から訪問理美容を再開している。今はやれていないが、ボランティアによるどんたく隊の来所を予定している。関連施設との合同秋祭りも再開をしたいと考えている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の介助や（皮膚科、歯科）訪問診療（往診）を受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護師がおり、状態に変化があれば相談、必要に応じて受診している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医担当部署の看護師やメディカルソーシャルワーカーと情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作り必要に応じ、御本人家族に説明し御家族と同意書を交わしている。ホームの看取り介護に関して職員も周知しておりホーム全体で方針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のホーム内研修会で事故発生時はヒヤリハットを報告検討し、職員全員で共有し実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練及び消防訓練を行い地域推進委員会で非常時に備え協力を依頼している。最終避難場所を唱和している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に、その人らしくと掲げ、人格を尊重した態度で接するように心掛け、介助中のプライバシーを守っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の希望や思いを聞き取り、自己決定していただいている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も体調やペースに合わせて無理強いせず、食事や睡眠時間を考慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好きな洋服を着ていただいている。起床時に整容していただいているが、介助が必要な方にはホットタオル等を使用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように、好みを理解している為、出来た料理をお見せし、荒刻み、ミキサーにかけたり、あんをトロミにしたり、そのまま提供したり工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートを作成し食事量や水分量を記入し嚥下状態が困難な方はミキサー食・トロミ食にて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食時に口腔ケアを行い観察している。必要に応じてマウスウオッシュを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の排泄パターンを把握し個々に合うケアを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、ドクターの指示で下剤を調整している。野菜を多く取り入れたメニューを考慮したり乳製品・オリゴ糖・アマニ油を提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望に応じて対応している。週2回入浴している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を確認し夜勤者が申し送りをしている。昼夜逆転の方もおられ睡眠導入剤を処方される事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書にて把握している。与薬時はダブルチェックにて内服するまで確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に御家族より情報を聞き取りケアに生かしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の帰りに昔住んでいた近くを通るなど、ドライブを行っている。買い物をしたい希望があればコンビニエンスストアへ出掛けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際、預り金の財布を渡して支払いができない場合は支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた後、かかってきた場合は取り次いでいる。節目節目で御家族の方からの荷物や手紙の受け取りの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾っている。毎月壁飾りを入居者様と一緒に作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに入居者様同士が語らえる場所（座席）の配慮をしている。希望時は自室で過ごしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具やソファ、写真、飾り物等を持って来ていただいている。御本人が居心地よく過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、また廊下やトイレに手すりを設置。個々の残存機能を生かした支援をしている。トイレや洗面所が分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない